

絵画コレクション展〔会期：2010年6月5日～8月8日〕 出品作品						神戸市立博物館 ギャラリー		
	画家名	画家よみ	作品名	制作年	技法・材質	寸法	収蔵経緯	出品展覧会
1	川端謹次	かわばたきんじ	潮風	1955	油彩・キャンバス	145.5×112.3	昭和32年度寄贈	神戸市蔵 第11回日展（特選）
2	小見寺八山	おみでらはっせん	神戸港図	1934	油彩・キャンバス	63.8×121.3	平成18年度寄贈	
3	小松益喜	こまつますき	煉瓦塀と異人館	1983	油彩・キャンバス	72.0×90.5	昭和59年度購入	
4	田村孝之介	たむらこうのすけ	婦人像（黒いドレス）	1954～55頃	油彩・キャンバス	60.5×50.0	平成2年度購入	
5	田村孝之介	たむらこうのすけ	テラス（フランス パリ）	制作年不詳	油彩・キャンバス	38.0×45.5	昭和63年度購入	
6	田村孝之介	たむらこうのすけ	窓辺の風景	1957	油彩・キャンバス	60.6×50.0	昭和58年度保管転換	
7	伊藤継郎	いとうつぐろう	窓辺の花	1972～73頃	油彩・キャンバス	60.6×50.0	昭和56年度購入	
8	西村 功	にしむらいさお	トーア・ロードにて	1958	油彩・キャンバス	53.3×64.9	平成6年度購入	
9	西村 功	にしむらいさお	ベンチの夫婦（ロンドン）	1977	油彩・キャンバス	50.3×61.1	昭和57年度購入	
10	中西 勝	なかにしまさる	棲う（女・木・豚）	1981	油彩・キャンバス	96.8×96.8	昭和57年度購入	第35回二紀展
11	元川嘉津美	もとかわかつみ	伽耶山海印寺	1986	油彩・キャンバス	129×162	平成18年度寄贈	第48回一水会展
12	元川嘉津美	もとかわかつみ	佐保川と東大寺	制作年不詳	油彩・キャンバス	52.8×45.5	平成18年度寄贈	
13	元川嘉津美	もとかわかつみ	赤絵鉢果物（メロン）	制作年不詳	油彩・キャンバス	38×45.8	平成18年度寄贈	
14	元川嘉津美	もとかわかつみ	薔薇（マジョリカ）	制作年不詳	油彩・キャンバス	52.9×45.3	平成18年度寄贈	
15	金山平三	かなやまへいぞう	いか	1945～56頃	油彩・板	31.6×41.0	昭和56年度寄贈	
16	金山平三	かなやまへいぞう	春来る	1950年以前	油彩・板	23.9×33.0	平成19年度保管転換	
17	金山平三	かなやまへいぞう	奥入瀬	1945～56頃	油彩・キャンバス	50.1×65.1	昭和56年度寄贈	
18	榊井一夫	ますいかずお	夏の舞子風景	1965年8月	油彩・キャンバス	24.3×40.8	平成20年度保管転換	
19	伊川 寛	いかわかん	神戸港風景	制作年不詳	油彩・キャンバス	41.1×32.0	平成17年度寄贈	
20	栗原 信	くりはらしん	パリの裏街	制作年不詳	油彩・キャンバス	21.5×14.2	昭和62年度寄贈	（山野井信雄コレクション）

<作家略歴> 神戸市立博物館 絵画コレクション展 (2010年6月5日～8月8日)

金山平三 (かなやま・へいぞう) 1883 (明治16) 年～1964 (昭和39) 年

神戸市に生まれる。東京美術学校西洋画科に入学、黒田清輝に師事する。1909年、同校を首席で卒業。1912～15年渡欧。帰国後、1916年の第10回文展で《夏の内海》が特選第二席、また翌年の第11回文展で《氷すべり》が特選となり、以後無鑑査。写生旅行を重ね、風景画に独自の境地を開き、若くして高い評価を得たが、1935年の帝展改組に反対し、官展系画壇から離れた。兵庫県立美術館に主要作品のほとんどが所蔵されている。

小見寺八山 (おみでら・はっせん) 1889 (明治22) 年～1934 (昭和9) 年

新潟県の出身。太平洋画会研究所で洋画を学び、帝展に出品した。文豪・志賀直哉が1925 (大正14) 年に奈良に移り住むと、周囲に画家たちが集まり「高畑サロン」を形成したが、小見寺はその一員だったという。神戸税関の依頼によるとされる《神戸港図》(1934) 制作後、逝去。

栗原 信 (くりはら・しん) 1894 (明治27) 年～1966 (昭和41) 年

茨城県石崎村に生まれる。本名、信賢。茨城師範学校を卒業。1917 (大正6) 年、第4回二科展に《木》を出品、初入選。翌年、小説家を目指して、同人誌『世紀』を井伏鱒二らとともに創刊した。1928 (昭和3) 年に渡仏、グラン・ショミエールに学ぶ。1931年に帰国し、第18回二科展に《トンドの河畔》などを出品、昭和洋画奨励賞を受賞。翌年、会友となり、1936年に二科会員となる。太平洋画会展にも出品。戦後は第二紀会の創立に参加、以後同展に出品した。1957年、サンパウロ・ピエンナーレ日本委員。

田村孝之介 (たむら・こうのすけ) 1903 (明治36) 年～1986 (昭和61) 年

大阪市に生まれる。太平洋画会研究所、信濃橋洋画研究所に学ぶ。小出楯重、鍋井克之、国枝金三に師事する。1926年、第13回二科展で《裸婦》が初入選。二科展と全関西洋画展に発表。1929年に神戸市へ転居、1931年頃に六甲洋画研究所を開設した。戦争中は中国、ビルマへ記録画制作のために派遣される。1947年、旧二科会員のなかで再興二科に参加しなかった画家たちと第二紀会を結成し、その中心となった。1955年、兵庫県文化賞受賞。

小松益喜 (こまつ・ますき) 1904 (明治37) 年～2002 (平成14) 年

高知県土佐郡旭村 (現・高知市旭元町) に生まれる。1925年、東京美術学校西洋画科に入学、和田英作教室に学ぶ。1930年、同校を卒業。同年、第17回二科展に《雨の止んだ時の風景》が初入選。1934年、義姉の住む神戸滞在中、エキゾチックな雰囲気満ちた旧居留地や異人館を描くようになる。1936年、第10回全関西洋画展で朝日洋画奨励賞を受賞。1937年、第2回新制作派協会展で新作家賞を受賞、同会へ出品を続ける。1959年に兵庫県文化賞、1975年に神戸市文化賞を受賞。

元川嘉津美 (もとかわ・かつみ) 1905 (明治38) 年～2005 (平成17) 年

広島県賀茂郡に生まれる。本名は克己。大正時代初めに神戸に移住。神戸地上社洋画研究所 (夜間部)、信濃橋洋画研究所 (日曜部)、大阪美術学校 (夜間部) などで油絵を学ぶ。1928年に二科展初入選、1942年、会友となる。1951年、第13回一水会展に《神戸風景》を出品、初入選。以後、一水会を中心に作品の発表を続け、1968年より委員をつとめる。1973年のヨーロッパ旅行を機に、イタリア、スペイン、フランスの風景を重厚なマチエールで描いた作品を発表。1976年に神戸市文化賞、1984年に兵庫県文化賞を受賞。

伊藤継郎 (いとう・つぐろう) 1907 (明治40) 年～1994 (平成6) 年

大阪市に生まれる。1923年より、松原三五郎が主宰する天彩画塾に学び、後に赤松麟作に師事する。1928年、武庫郡精道村 (現・芦屋市) に転居。1930年、第17回二科展で《座像》が入選。翌年から信濃橋洋画研究所に通う。1935年、第22回二科展にて特待。1941年、第6回新制作派協会展に出品、会員となる。1948年、芦屋市美術協会の創立に参加。浪速短期大学、大阪芸術大学、京都市立美術大学 (現・京都市立芸術大学) の教授を務める。1969年に芦屋市民文化賞、1990年に兵庫県文化賞を受賞。

伊川 寛 (いかわ・かん) 1908 (明治41) 年～1988 (昭和63) 年

明石市に生まれる。本名、寛二。信濃橋洋画研究所、川端画学校に学び、新井 完に師事する。1932年、第19回二科展に《コスチューム》を初出品。戦前は二科展を中心に、作品を発表。1942年頃より板宿に住み、須磨女子高等学校 (現・須磨学園) で美術を教える。1946年、神戸洋画会の創立に参加、翌年、第1回第二紀会同人となる。戦後は長田に住み、須磨学園、神戸海星女子学園の美術教諭を務める。美専堂の絵画教室で後進を指導。門下に中西 勝、石阪春生、江見絹子、黄碧月がいる。裸婦の制作で知られた。1981年、神戸市文化賞受賞。

榊井一夫 (ますい・かずお) 1908 (明治41) 年～1991 (平成3) 年

神戸市に生まれる。楠高等学校卒業後、同校教諭の赤松彦次郎に洋画の手ほどきを受ける。1931年、ヨーロッパ留学より帰国して間もない小磯良平を訪ね、以後師事する。竹中 郁、田村孝之介、小松益喜と交友。新制作派協会に第1回展より出品。1947年より一水会に出品、1963年会員となる。1951年、大潮会展で《滞船》が特選を受賞。1979年、神戸市文化賞受賞。

川端謹次 (かわばた・きんじ) 1909 (明治42) 年～1998 (平成10) 年

兵庫県氷上郡柏原町に生まれる。県立柏原中学校 (現・県立柏原高校) 在学中の1927年頃、同校で開催された西洋画展覧会で藤島武二の作品を見て、画家の道を決す。1932年、東京美術学校西洋画科に入学。田辺 至と藤島武二に師事する。とりわけ藤島のもとで、外光の下で自然を描写することを学ぶ。美術学校卒業後、1947年に神戸市へ転入。県立長田高校の美術教諭を務めた。光風会、日展、神戸洋画会展を中心に発表。1955年、《潮風》が第11回日展で特選受賞。1997年、神戸市文化賞受賞。

西村 功 (にしむら・いさお) 1923 (大正12) 年～2003 (平成15) 年

大阪市に生まれる。中之島洋画研究所を経て、帝国美術専門学校 (現・武蔵野美術大学) に学ぶ。1948年に同校卒業後、西宮に住み、1950年頃より田村孝之介の六甲洋画研究所に学ぶ。1950年、二紀会で佳作賞、1956年に委員となり同展を中心に作品を発表。1966年、《ベンチの人々》が第9回安井賞を受賞。赤帽を題材にした作品の制作で知られ、1970年の初渡欧以来、ヨーロッパの街角風景やギャルソンの姿など洒落た風俗画を発表。1982年に神戸市文化賞、1988年に兵庫県文化賞を受賞。

中西 勝 (なかにし・まさる) 1924 (大正13) 年～

大阪市に生まれる。中之島洋画研究所、彫刻家の保田龍門に学ぶ。帝国美術専門学校 (現・武蔵野美術大学) 在学中、学徒動員のため中国へ従軍。復員後、同校を1947年に卒業。1949年、二紀展初出品の《無題》が二紀大賞受賞、以後同展に出品。1965年から4年半かけてアメリカ、メキシコ、グアテマラ、ヨーロッパ諸国を巡る。1972年、《大地の聖母子》が第15回安井賞、《黒い聖母子》が二紀会文部大臣賞を受賞。1973年にモロッコやシルクロード、1977年にフランス、1982年チュニジア、モロッコ等を旅する。1974年に兵庫県文化賞、1976年に神戸市文化賞を受賞。